

立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科
湊宣明研究室を訪問！



湊宣明教授

システム・イノベーションで、 分野を超えた協業を成功に導く

機械、ビジネス、社会。
あらゆる事象をシステムと捉え、
持続可能にする研究を目指す。

航空宇宙からテレワークまで、
ミッション達成に何が必要かを研究する。
立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント(MOT)
研究科の湊宣明研究室を訪問した。

立命館大学の大学院には21の研究科があり、そのうち学部を基礎にもたない独立研究科のひとつに、2005年に設立されたテクノロジー・マネジメント研究科、通称MOT(Management of Technology)がある。MOTに所属する湊宣明教授はシステム・イノベーションという独自性が高い研究テーマで注目を集めている。

「システム・イノベーションの研究対象は多様です。機械、ビジネス、社会などのあらゆることをシステムとして捉え、全体をバランス設計し、持続可能に運用するための研究です」と湊教授は語る。

システム・イノベーションを端的に説明すると「部分的な問題解決を超えて、全体としての目的を達成するために、必要な技術や組織を組み合わせて、どのように運用するか」を突き詰め、その仕組みが機能する方法を考えていくことだ。システム・イノベーションという考

として慶應義塾大学大学院を経て現職となる。湊教授の研究テーマのひとつである、宇宙飛行士の資源管理・運用技術を用いたトレーニング開発は、究極のリモート環境で集団がどのように協調行動を行うかの研究だ。

「4名が別々の部屋で音声をを使って、20人ほどのようなゲームを行う場合、共通認識がないと誰もが不安で前に進めません。遠隔での共同作業は、全体の共有、座席の共有(全体のどこにいるか、用語の定義など)、お互いの現状や状況認識の共有が必要なんです。」
この研究成果は、遠隔医療従事者のチーム作りや、コロナ禍でのリモートワークでの協業に役立つと期待されている。

大学院では現在、博士前期課程17名、博士後期課程2名の学生が研究に取り組む。学生の出身学部は理、情報、生命科学、スポーツ経営などさまざま。革新的な脱炭素技術の社会普及戦略、人の五感と購買行動との関係、バーチャル空間での生産的な動き方の追求、空飛ぶエアクラシをシステムとしてどう成功させるかなど、学生が取り組む研究分野はホントに幅広い。

ISHIDA
イシダは
学生の活動を
応援しています。

株式会社イシダ
〒601-8438
京都市南区西九条東比永城町
75番地 GRAND KYOTO 3F
もよりバス停は「九条大宮」



新卒採用の情報は
こちらからご確認ください



佐藤慎平さん (博士前期2年) 張璣さん (博士前期1年) 中島愛実さん (博士前期2年) 佐藤太星さん (博士前期1年)



はかりしれない技術を、世界へ。

ISHIDA

イシダ 採用 検索